

宝曆四年銘青面金剛立像



〔登録年月日〕平成十一年一月二十七日
〔種別〕有形民俗文化財（信仰）
〔名称〕宝曆四年銘青面金剛立像
〔点数〕一基
〔所有者等〕個人
〔所在地等〕上高井戸二―一―五六

宝暦四年銘青面金剛立像

古く人見街道と呼ばれた道路と村内の道との三叉路に位置して造立された庚申塔で、宝暦四年（一七五四）一〇月に上高井戸村の講中一五人によって造立されたものである。

本庚申塔の主尊は六臂の青面金剛立像で、総高九三・六cm、駒型浮彫（凝灰岩）で邪鬼の上に立ち、邪鬼の下には岩座がある。岩座の下に三猿、三猿の下に岩座がある。この庚申塔は日輪・月輪・瑞雲・邪鬼・三猿・二鶏をともなう江戸時代中期の標準的な様式で、青面金剛は肉厚の浮彫で力強く表現されている。表面の三猿岩座下に九名、左側に六名の計一五名の供養者名が陰刻されているが、これらの人名の内には現在の系譜に結び付くものもあり、古文書等と対照することによって、江戸時代以来の当地の村落構造の研究に役立つ資料である。

この庚申塔は、上高井戸二丁目二番所在の三基の石塔とともに、江戸時代前期から中期にかけて、上高井戸地域に造立された庚申信仰に基づく石塔群を構成するもので、その形状は当時の典型的形式を示し、また当時の上高井戸村の信仰や構造等を考える上で重要な資料である。

【文化財所在地】

